

持続可能な世界を目指して

—いま、キリスト教学校ができること—

温暖化に象徴される環境問題は深刻さを増し、社会の仕組みを含めた緊急の課題として扱うべき時が来ています。同時に、神が創造された世界において、“命の保全”と“正義・平和の実現”は、人間が教育を通して次世代に伝えていくべきテーマとなっています。

この問題に神学的な観点から向き合い、国内・国外の取り組み事例を知るとき、キリスト教学校こそが取り組む価値のある、新しい教育の方向性を見出せるのではないのでしょうか。

皆様、是非ご参加下さい！

入場
無料

2019年**11月23日** (土・休) 13:00~17:00

於：大阪女学院ホールチャペル

所在地：大阪市中央区玉造2-26-54

アクセス：JR環状線「玉造」徒歩8分

大阪メトロ長堀鶴見緑地線「玉造」徒歩3分

講演Ⅰ 木村護郎 クリストフ氏

「キリスト教教育の一環としての環境教育」

1974年生まれ。上智大学外国語学部ドイツ語学科教授、大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻主任。専門は言語社会学、ドイツ社会研究。編集書・共著：『節英のすすめ』（萬書房）、『今こそ原発の廃止を』（カトリック中央協議会）、『ドイツ・スイスから考える環境・エネルギー問題へのアプローチ』（上智大学ヨーロッパ研究所）、『原発とキリスト教』（新教出版社）ほか。

講演Ⅱ 福嶋 揚氏

「エコロジーとキリスト教」

1968年生まれ。1992年東京大学文学部倫理学科卒業、1997年東京大学大学院博士課程修了（人文社会系研究科倫理学専攻）。チュービンゲン大学福音主義神学部を経て、2008年ハイデルベルク大学神学部にて神学博士号(Dr.Theol)取得。現在、立教大学、東京神学大学、日本聖書神学校にて兼任講師。著書：『カール・バルト 未来学としての神学』（日本基督教団出版局）、『カール・バルト 破局の中の希望』（ぶねうま舎）ほか。

事例報告Ⅰ

不二聖心女子学院中学校・高等学校

(静岡県裾野市)

「21万坪の自然を生かした環境
教育の試み」



事例報告Ⅱ

桃山学院中学校・高等学校

(大阪市阿倍野区)

「高校生たちによる途上国支援
—スクール・バイ・スクール
(SBS) プロジェクトについて—」

主催：キリスト教学校教育同盟
日本カトリック学校連合会